

農業振興公社だより

新年にあたって

理事長 佐藤清吉



農業振興公社も設立以来四年目に入り、皆様方から寄せられた御支援に心から御礼申し上げます。年もあらたまり、決意を新たにしてお張り参りたいと存じます。

お陰様を持ちまして、農地流動化、農作業受委託事業、水田受託者連絡会の結成等、年を追って事業の拡大充実が図られています。ところで、最近では農業機械銀行の業務に加え、担い手全員の労災保険の加入、さらには共同して農業

機械更新をすべく基金の造成など、山積みする問題も抱えております。都市との交流においては、東京都目黒区との小学生の交歓交流、田植・稲刈り体験など農協青年部と公社との連携プレーによって、着実な実績を積み上げております。昨年暮れには「みどりの交流事業」の協定を結び、角田市二十一世紀の花木「椿」を千本単位で生産・供給し、都市の緑化の一役を担うということになりました。文字どおり花も実も根もある交流が展開されることを期待するものであります。また、角田の米の生産現場を見たいという米販商の意向で、多くの都民が角田市を訪れていた。だき、文字通り都市と農村との交流も公社を軸として進んでおりますこと、これまたご同慶の至りであります。

また三年来、角田ブランドの開発として農、商、工、消費者が一体となつて取り組んで参りました「角田の地酒」、第二弾としまして季節限定の濁り酒『おらほのうま酒・雪』の完成を見、いづれも好評を博しているところであります。

今、世界は大きく転換をしようとしております。特に我が国は、

「追いつけ、追い越せ」の邁進型でやってまいりましたが、バブルがはじけて低経済成長に移りつつあるのに加え、少子高齢化はぐんぐん進み、角田市の高齢化率は二十三パーセントを超えることとなり、実に総人口の四分の一が高齢者が占めることとなりました。老人人口の伸びによる介護絶対量の増加、農業従事者の大半は農業者年金等の受給者という状態であります。

生産人口の減少に伴う市の歳入減、国・県補助などいわゆる三位一体の削減計画を見ますと、自治体運営の前途は容易ならざるものがあると思慮されます。

こうした中で私は、高度経済成長のまつただ中であつて当時の県知事の故山本壮一郎氏が常に言っていたことが思い浮かんで参ります。「世の中は経済合理主義、効率主義がまかり通っているが、それだけが政治ではない。世の中にとつてなくてはならない必要なものがあり、それは必要の原則とも言うべきか。私はそういうものを大切にしなければ世の中は成り立ち得ない」これが今、興りつつあるスローライフ運動の原点かなと思ひます。

農業はまさにスローライフそのものであり、私は「農業を工業の時計で計ってはいけません。農業には農業の時計がある。」と主張しています。山林には林業の時計がある。植林もせず放置しておけばただの山だが、植林しておけば四十年、五十年経ったなら素晴らしい美林になる。要するに農業というものも、やるか、やらぬかが正否を分けるのです。

二十一世紀の花木を「椿」と定めましたが、これも市民一人ひとりが庭に、また道沿いに植えたならば、紛れもなく五十年、百年後に角田市は椿のまちとして全国に名を馳せるであろうと、夢を描いております。

じつと時期が来るまで堪え忍ぶという古来からの農民魂を今こそ甦らせなければならぬと思うし、やれることは自らやる。要するに町を考え、家を考へるものは私しかいないという悲壮な決意をしなければならぬ時代であります。

ただ、農政当局に一言したいが、工業社会の効率理論に決して流されない農の理論を、しっかりと持つて対処してほしいと思ひます。

人類の発祥は農業からであった、それが我々の信念であります。

◆発行と印刷◆

(社)角田市農業振興公社
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊22
電話 (0224) 63-2328
FAX (0224) 61-1521
URL <http://www.kakunou.or.jp/> E-mail kakuda@kakunou.or.jp